

豊橋市埋蔵文化財調査報告書第145集

# 吉田城址(XV)

2017年3月

豊橋市教育委員会



第36図 豊橋町及び下地近傍図（明治26年発行、抜粋・加筆）

表5 歩兵第十八聯隊による遺構の改変と再利用の状況（丸囲み数字は図36に対応）

◆本丸

- ① 江戸初期に本丸御殿が設けられたところ。石垣に囲まれた中央に3棟の倉庫（被服庫）を設置した。
- ② 豊川に沿った腰曲輪は、川手櫓台を削平して平坦にし、後に弾薬填替所を建設した。

◆二の丸

- ③ 西側の土塁（おおむね二の丸口から北）は削平され、堀は埋められた。
- ④ 東側の残された土塁と堀に囲まれた二の丸御殿の跡地には、病院（後の豊橋衛戍病院）が設けられた。

◆三の丸

- ⑤ 当初は城の旧天王口を営門（中央門）とし、その東側に聯隊本部を置いた。
- ⑥ 明治31年以降は旧三ノ丸口に営門を移設し、聯隊本部（聯大隊本部）も門のすぐ北側に建設した。
- ⑦ 二の丸の土塁を削平し、堀を埋めて設けた広大な敷地に、兵舎とそれに付随する施設（洗面洗濯所、厨房、厠、浴室、物干など）を設けた。
- ⑧ 三の丸の北東隅に（士官）集会所を設置した。
- ⑨ 三の丸の東端、旧川毛門付近に広い余剰地を設け、片隅には廃棄物処理を目的にした大型土坑が掘られた。その後この付近は士官集会所とともに兵の福利厚生スペースと見なされ、大型土坑が埋め戻された後、明治40年までには酒保（または下士集会所）や付随する庭園などが設けられた。
- ⑩ 十八聯隊の敷地の内外を区別するため、三の丸の土塁と堀はそのまま残された。

◆藩士屋敷地

- ⑪ 三の丸の東側、かつての藩士屋敷地を造成して広大な練兵場にし、さまざまな軍事教練が行われた。練兵場内の朝倉川に面した北側には3つの森林があり、西の森は秋葉社、中は神明社、東は八幡社の境内の名残である。
- ⑫ 明治19年、練兵場の東側の一角に、300mの近距離射撃場がつけられた。吉田城の外堀は東側が2重になっており、この土塁と堀に挟まれた部分を射撃場として利用したもの。
- ⑬ 練兵場以外は、かつての藩士屋敷地の区画がそのまま残された。三の丸口南の、家老たちが屋敷を構えた広い敷地には小学校が設けられ、明治40年には渥美郡役所や高等小学校、高等女学校などが設けられた公共用地になった。
- ⑭ 外堀の土塁は練兵場を除いてほぼ削平されたが、堀は幅を狭めながらも残されており、明治26年の時点では南側中央と南東隅の一部が埋め立てられたただけだった。また明治40年の時点でも大きくは変わっていない。

# 豐橋百科事典

2006

豐 橋 市

コロジー工学課程を設置した。平成8(1996)年4月、エネルギー工学課程を機械システム工学課程と改称した。

豊橋技術科学大学は、33万5606㎡のキャンパスに附属図書館のほかに技術開発センター・分析計測センター・計算機センター(情報処理センターと改称)・マルチメディアセンター・工作センターなどのほか、語学センター・体育保健センターがあり、学生宿舎、留学生宿舎として国際交流会館が設置されている。平成16(2004)年4月1日、国立大学法人豊橋技術科学大学が発足した。

◎ 豊橋技術科学大学開学10周年記念事業委員会年史編集部会「豊橋技術科学大学十年史」



豊橋技術科学大学(豊橋市天伯町)

#### 豊橋キャピトル劇場→豊橋国際劇場

**豊橋球場(豊橋市今橋町) とよはしきゅうじょう** 豊橋球場は、旧歩兵18聯隊練兵場跡に造成中の豊橋公園内に、昭和23(1948)年8月、完成して開場した。戦災復興事業の施設第1号で、工事費は840万円であった。焼野原となった市街地には膨大な瓦礫がまだ堆積していた。豊橋市では瓦礫処分地として旧吉田城の空壕と、野球場のスタンド盛土に搬入した。

昭和25(1950)年10月、第5回国民体育大会愛知大会で、軟式野球競技は豊橋球場を主会場として開催した。開場時は、高校野球の試合が多かった。一般軟式野球や少年野球の広がり、ソフトボールの普及で、休日はほとんど大会が開催されている。また、1日中、早

朝野球からナイターまで使用されている。昭和30(1955)年までは、プロ野球公式戦もしばしば行われた。敷地は2万7768㎡(内競技場1万2952㎡)で、両翼100m・中央116m、観覧席は内野3000・外野1万2000の計1万5000を収容できる。ナイター照明4基(昭和48年8月設置)がある。平成15(2003)年度の利用人員は、4万1400。周囲には、陸上競技場、テニスコート、市民プール、武道館、弓道場がある。

#### 豊橋魚鳥→魚市場

**豊橋銀行 とよはしぎんこう** 豊橋銀行は、明治25(1892)年9月豊橋魚町に設立された。明治18(1885)年東本願寺系の豊橋真利宝会が豊橋本町に資本金5万円で開業したものが発展的に解散して豊橋銀行となったものである。初代頭取は杉田権次郎であった。豊橋銀行は、明治29(1896)年に設立された豊川鉄道を応援したため、豊川鉄道振り出しの約束手形の支払いができず、同34(01)年支払い停止に陥り、同36(03)年倒産した。

「豊橋近代芸能史」(芳賀信男) とよはしきんだいげいのうし「新聞広告から見た豊橋近代芸能史」(芳賀信男 平成18年)は、豊橋で最初の芝居小屋・朝倉座から、明治・大正・昭和(第2次世界大戦前)の劇場・映画館で上演・上映された外題・演目や出演者などを「参陽新報」「新朝報」の広告・記事から抜き出したものである。明治初年の朝倉座・弥生座・東雲座・豊橋座などの開設から大正期の映画館への転換、昭和20(1945)年6月の空襲によって灰燼に帰したことまでが記されている。広告のコピーがふんだんに収録されており、芸能史とともに世相や風潮もうかがえる。

「豊橋空襲体験記」(豊橋空襲を語りつぐ会